

「乳牛の栄養自給率を高める」

世界的な人口増加に伴う資源や穀類等の逼迫を反映し、食料や生産資材に関わる国際的な争奪が激化しています。このようななか、酪農分野ではより一層の自給飼料に立脚した「栄養自給率の高い」経営が求められています。

国内では少子・高齢化や金融問題に端を発した経済危機等による消費の低迷が大きな問題となっています。酪農経営に於いても生乳等の消費が減少し「従来のような右肩上がり」の拡大型生産は難しい状況にあります。

根室管内におていは、草地開発整備事業等により牧草地の整備が進み酪農・肉用牛生産を支える豊かな生産基盤となっています。

この整備された基盤・牧草地を活かし「乳牛の栄養自給率」を高めることが酪農経営者や関係する機関に求められています。栄養自給率を高める行程は"ロス"を低減する過程でもあります。投入した資材・経費、労働を如何にロスなく効率的に乳牛の口元に届けるかが、栄養自給率を高めるポイントとなります。

乳牛の栄養自給率を高める項目は以下のように整理されます。

1 土づくり

作物・牧草が育つ土壌の改善です。作物が育つ根域の改良が重要です。地温を上げ、根域を広げるための排水促進や心土破砕、肥料養分の吸収を高めるための石灰資材の投入・pHの改善、保肥力を高めるための有機物の安定した施用等が重要となります。

2 家畜ふん尿の有効利用

近年、家畜ふん尿は「厄介者扱い」されがちです。しかし、有用な肥料資源として肥料費の節減にも貢献していますし、資源循環システムを考えた場合、ふん尿の有効利用は避けては通れません。一方、家畜ふん尿のサイレージ原料への混入が課題となり、過剰でない適度な施肥量、散布時期等を含めた改善方策の検討が求められています。

3 植生の改善

根室管内でもシバムギやリードカナリーグラス等の地下茎イネ科植物の侵入・繁茂が課題となっています。乳牛の嗜好性や消化性が高い草種の造成と維持が栄養自給率を高める上でのポイントとなります。近年は「簡易草地更新技術」が普及してきています。詳しい資料は、昨年発行した「草チェン」を参考にしてください。

4 サイレージの調製技術の改善

刈り取り時期、水分調整、刈り取りの高さ、異物の混入、添加剤の利用、詰め込み期間、踏圧密度等、多くの作業技術がサイレージの発酵品質に関与しています。特に、近年は根釧農業試験場から「圧縮係数2以上」という具体的な踏圧目標が提示され、発酵品質の改善に寄与しています。

乳牛は反芻動物です。このため、健康に飼養するための基本には「良質な繊維質飼料」が必須です。この資料は管内の飼料自給率の向上のために作成しました。生産現場での技術向上の一助になれば幸いです。